

精神障害者の退院支援を行った ピアサポーターから



病棟での体験談発表などを通じて、地域での生活の楽しさや責任を伝えたいと思いながら活動してきました。

ピアサポーターの存在を入院患者さんに知ってもらい、私たちの言葉(気持ち)が少しでも届いていれば嬉しく思います。

今後も、ピアサポーターとして働いていきたいと思っています。

(40 歳代男性)



ピアサポーター養成講座受講を勧められたとき、「身だしなみや時間にルーズな私がなぜ?」と思いましたが、修了証書をもったときは嬉しかったです。

患者さんへの関わり方は自己流でしたが、重荷にならないよう接してきたつもりです。

「誰かの役に立ちたい!!」という気持ちまで湧いてきて、これからの自分が更に充実した毎日になるような気がして楽しみです。

(60 歳代男性)

ピアサポーターに採用されて、社会から必要とされていると思う一方、身の引き締まるような責任も感じました。

はじめのうちは、自分の過去に振り回され、感情が揺れ動きましたが、今は、本当にやって良かったと思うし、リラックスして仕事ができるようになりました。

病院で面談が終わったときに、「もう帰ってしまうの?」と患者さんに言われて、自分の存在が患者さんのためになっているんだと自信が沸きました。

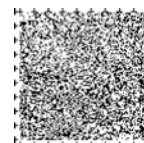
(50 歳代女性、40 歳代女性)



次回のピアサポーター養成講座は、平成 31 年 7 月頃を予定しています。

【問合せ先】

鹿児島県くらし保健福祉部障害福祉課
TEL:099-286-2754 FAX:099-286-5558



ピアサポーターとは?

ピアサポーターとは、地域で生活している精神障害者で、病気の経験などを活かして、病院内で入院患者に体験談発表をしたり、退院したいと思っている患者の住宅さがしや日用品の買い物などをしたり、退院支援を行う人のことをいいます。

特集

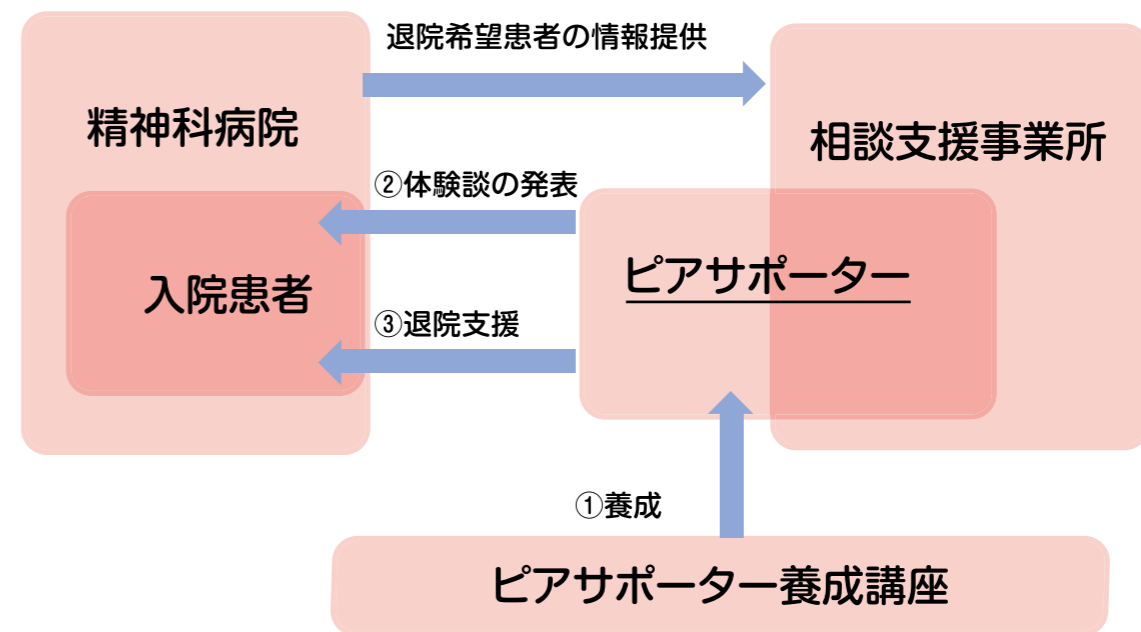
「ピア」
peer
仲間、対等、同輩

長期入院精神障害者の地域移行支援について

県では、長期入院されている精神障害者の退院支援を推進するため、平成29年度から、ピアサポーターを活用した退院支援を実施しています。

具体的には、ピアサポーター養成講座を実施し、養成したピアサポーターが精神疾患を患ったこと、直面した困難や苦労を克服したこと、地域で暮らして経験していることなどの体験談を病院で発表しています。

また、体験談発表を聞いて、退院を希望する患者に対して、退院後の住居の案内、携帯電話の契約の手続きや日用品の買い物などへの同行支援を行っています。



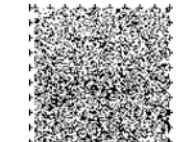
ピアサポーターの支援を受けて退院した精神障害者から

(当事者)

- グループホームをいくつか見学して見比べられたのが良かったです。
- 退院前の細かいところまで手伝ってもらえて助かりました。
- ピアサポーターが活動する姿を身近で見ているので、尊敬できます。

(家族)

- 自分たちで闇雲に動いて退院先を探すよりも、ピアサポーターに詳しく提案してもらえたので、安心しました。



ピアサポーターが県内で活躍中!
精神障害者の退院支援を行っています

